



「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同について

星光ビル管理株式会社（社長:長谷川 靖、以下「当社」）は、2023年3月27日付けで、TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）への賛同を表明いたしました。

当社は、気候変動が当社事業にもたらすリスクと機会を把握し、経営戦略に反映させるとともに、TCFD提言に基づく情報開示を積極的に進めて参ります。

また、今後、サステナビリティ経営を推進する中で、TCFD 提言が推奨する気候変動に係る下記の「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」の各項目に関し、今後開示の充実を図り、持続可能な社会の形成に寄与してまいります。

記

〈ガバナンス〉

当社は2023年4月から社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」（常務会諮問機関）を設置します。

当委員会は四半期に1度開催され、気候変動に関する戦略の策定、課題の見直しおよび当社の対応方針について審議・決定しています。

また、経営に関する重要事項については、常務会等の審議を経たうえで決定されます。

当社は「総合ビル管理会社」として、約2300棟の物件の管理を承っており、現在、本事業活動を通して、間接排出されるCO2排出量の削減を進めています。

〈戦略〉

気候変動が事業に与える影響を把握するため、当社はシナリオ分析を通じて、将来発生が予見される気候変動関連リスクと機会の特定を進めてまいります。

特定されたリスクについては、当社事業への影響度を評価し、特に事業に影響を及ぼす可能性が高いリスクは気候変動対応への重要テーマとして位置付けます。

〈リスク管理〉

当社は、「リスク管理の基本方針」および「リスク管理規程」に基づき、全社的・体系的なリスク管理態勢の整備・強化を図っています。「内部管理プログラム（リスク・コンプライアンス編）」にて業務におけるリスクを洗い出し、未然防止・早期検知対策を実施し、その結果を取締役に報告しています。

気候変動関連のリスクと機会については、社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」が主管となり、気候変動に伴う外部および内部環境の変化をモニタリングし、事業に影響を与える気候変動候リスク・機会を洗い出しています。洗い出されたリスクと機会については、当社への影響度等をもとに評価・分析し、影響度の高いリスクと機会を特定していきます。その後、常務会にて審議したうえで、全社リスクと機会として組み込んでいきます。

〈指標と目標〉

当社では、「サステナビリティ基本方針」を制定し、温室効果ガス排出量の削減を環境経営における重要課題と位置付けています。事業活動で発生する環境負荷の低減に取り組むとともにTCFD提言に基づく情報開示を積極的に進め、サステナブルな社会への貢献を目指します。

以上